実績報告書

届出者	住所	大阪市此花区桜島2-1-33	氏名	合同会社ユー・エス・ジェイ 社長CEO ジャン・ルイ・ボニエ

特定事業者の主たる業種	95その他のサービス業	
該当する特定事業者の要件	レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第３条第１号に該当する者
		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第３条第２号に該当する者
		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第３条第３号イ又はロに該当する者
事業の概要	当社はフロリダとハリウッドにあるユニバーサル・スタジオをベースにしたテーマパークを運営しており、パーク内にはアトラクション施設、物販店舗、飲食店舗、事務所等がある。	

◎　温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間

2018　年　4　月　1　日～　2021　年　3　月　31　日（3年間）

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度（　2017　）年度	前年度（　2018　）年度
温室効果ガス総排出量	63,977　t -CO_2	65,985　t -CO_2
温室効果ガス総排出量（平準化補正後）	69,343　t -CO_2	71,614　t -CO_2
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0　t -CO_2

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分			削減目標（2020　年度）	第1年度（2018　年度）	第2年度（2019　年度）	第3年度（2020　年度）
選択		削減率（排出量ベース）	%	%	%	%
	レ	削減率（原単位ベース）	3.0 %	0.9 %	%	%
削減率（平準化補正ベース）			3.0 %	0.7 %	%	%
吸収量による削減率			%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容（目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入）

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値　（ 建屋延床面積×平均営業時間/1000 ）

（温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法）

◎　事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

密接な関係を持つ値の建屋延床面積及び平均営業時間の増加に対して、エネルギー総使用量の増加率を抑制出来たことにより、原単位ベースで0.9%の削減が出来た。

(2)推進体制

テクニカルサービス部が中心となり、運用方法改善を中心とした省エネルギー化を推進します。
また、部門横断的な省エネプロジェクトチームを継続して運用し、省エネルギー施策の浸透を図ります。
電気の需要の平準化対策としては、コージェネレーション設備を活用しピークカットを行っています。

実績報告書

届出者	住所	大阪府枚方市大峰南町10番1号	氏名	株式会社ユニオン 代表取締役社長　武村　康夫

特定事業者の主たる業種	21窯業・土石製品製造業	
該当する特定事業者の要件	レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第３条第１号に該当する者
		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第３条第２号に該当する者
		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第３条第３号イ又はロに該当する者
事業の概要	ガラス製品の製造	

◎　温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間

2018　年　4　月　1　日～　2021　年　3　月　31　日（3年間）

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度（　2017　）年度	前年度（　2018　）年度
温室効果ガス総排出量	14,169　t -CO_2	13,249　t -CO_2
温室効果ガス総排出量（平準化補正後）	14,617　t -CO_2	13,639　t -CO_2
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0　t -CO_2

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分			削減目標（2020　年度）	第1年度（2018　年度）	第2年度（2019　年度）	第3年度（2020　年度）
選択		削減率（排出量ベース）	%	%	%	%
	レ	削減率（原単位ベース）	3.1 %	3.8 %	%	%
削減率（平準化補正ベース）			3.0 %	4.0 %	%	%
吸収量による削減率			%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容（目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入）

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値　（ 生産量（トン）　）

（温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法）

◎　事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

基準年度に対し，原単位で3.8%のCO2排出量を削減できた。前年に引き続き，各製品についてｴﾈﾙｷﾞｰ原単位改善への取り組みと，ｴﾈﾙｷﾞｰ原単位が悪い製品の比率が減少したことなど製品構成の変化が主な要因と考えられる。

(2)推進体制

ｴﾈﾙｷﾞｰ管理統括者を社長，ｴﾈﾙｷﾞｰ管理企画推進者を製造部長とし，ｴﾈﾙｷﾞｰ管理者および各製造課長を組織体とした省ｴﾈ推進組織を確立している。
4半期毎にPDCAｻｲｸﾙに基づいた省ｴﾈ推進活動を実施。年1回全従業員にｴﾈﾙｷﾞｰ使用量・原単位推移を周知・教育活動を実施。

実績報告書

届出者	住所	枚方市招提田近３－１０	氏名	ユニオンケミカー株式会社 代表取締役社長　木村栄一

特定事業者の主たる業種	32その他の製造業	
該当する特定事業者の要件	レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第３条第１号に該当する者
		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第３条第２号に該当する者
		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第３条第３号イ又はロに該当する者
事業の概要	プリンタサプライの製造販売、複写関連用品の製造販売、文具・オフィス用品の製造販売	

◎　温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間

2018　年　4　月　1　日～　2021　年　3　月　31　日（3年間）

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度（　2017　）年度	前年度（　2018　）年度
温室効果ガス総排出量	3,329　t -CO_2	3,427　t -CO_2
温室効果ガス総排出量（平準化補正後）	3,506　t -CO_2	3,596　t -CO_2
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0　t -CO_2

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分			削減目標（2020　年度）	第1年度（2018　年度）	第2年度（2019　年度）	第3年度（2020　年度）
選択		削減率（排出量ベース）	%	%	%	%
	レ	削減率（原単位ベース）	3.0 %	-5.2 %	%	%
削減率（平準化補正ベース）			3.0 %	-4.8 %	%	%
吸収量による削減率			%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容（目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入）

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値　（ 生産量（塗工㎡）　）

（温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法）

◎　事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

全体の塗工㎡が前年より約３％減少したが温室効果ガスが増加。
原因：
１．弊社転写テープ塗工㎡前年より１２．８％増加した結果、同一製品に対して都市ガスによる2回乾燥を行う工程により都市ガスが増加。
２．塗工速度の速い製品が減少し塗工㎡が減り、更に速度の遅い製品が増加したことにより乾燥に使用される都市ガスが増加。

(2)推進体制

エネルギー統括者、エネルギー管理企画、エネルギー管理者を中止にした省エネの会社啓蒙活動。

実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市此花区桜島1-1-111	氏名	合同会社ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾎﾃﾙﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄ 代表社員 ｵﾘｯｸｽ不動産株式会社 職務執行者 似内隆晃
特定事業者の主たる業種		75宿泊業		

該当する特定事業者の要件	レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第３条第１号に該当する者
		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第３条第２号に該当する者
		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第３条第３号イ又はロに該当する者
事業の概要	ホテル業 宿泊客室数：６００室 宿泊最大人数：１，８９８人 １stﾚｽﾄﾗﾝ客席数：３００人 ２ndﾚｽﾄﾗﾝ客席数：２００人	

◎　温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間

2018　年　4　月　1　日～　2021　年　3　月　31　日（3年間）

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度（　2017　）年度	前年度（　2018　）年度
温室効果ガス総排出量	5,492　t -CO_2	5,392　t -CO_2
温室効果ガス総排出量（平準化補正後）	5,800　t -CO_2	5,686　t -CO_2
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0　t -CO_2

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分			削減目標（2020　年度）	第1年度（2018　年度）	第2年度（2019　年度）	第3年度（2020　年度）
選択		削減率（排出量ベース）	%	%	%	%
	レ	削減率（原単位ベース）	1.0 %	-5.5 %	%	%
削減率（平準化補正ベース）			0.6 %	-5.4 %	%	%
吸収量による削減率			%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容（目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入）

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値　（ 特定用途延床面積(㎡) × 客室稼働率(%)　）

（温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法）

◎　事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

２０１８年度は、温水２次ポンプの更新や冷却塔の整備及び氷蓄熱設備オーバーホールによる効率改善を図り、また照明のＬＥＤ化を実施したが、ホテルの客室稼働率が下がった事により、温室効果ガス総排出量は基準年度より減少するも、削減率(原単位ベース)は-５．５％となった。
２０１９年度も引き続き、照明のＬＥＤ化や冷却塔の整備及び冷水一次ポンプ更新といった設備修繕を実施し、目標達成を目指したい。

(2)推進体制

平成２７年度に改組した省エネ推進委員会の活動を強化し省エネ推進を図る。　総支配人の下に、各スタッフ部門があり管理部門が中心となり温室効果ガス排出削減を推進する。
防災センター（施設運用管理担当）は、管理部門の指示により温室効果ガス排出削減推進を補佐し、
施設運用管理面での温室効果ガス排出削減を推進する。